

地域医療支援病院の業務に関する報告書

令和5年9月4日

神奈川県知事殿

住所 横浜市中区本町2丁目2番地
京阪横浜ビル4階

開設者

氏名 地方独立行政法人神奈川県立病院機構
理事長 吉川 伸治

医療法施行規則第9条の2第1項の規定により、令和4年度の業務に関して報告します。

- 1 名称 地方独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立足柄上病院
- 2 所在地 神奈川県足柄上郡松田町松田惣領866-1
- 3 診療科名 内科、呼吸器内科、消化器内科、精神科、脳神経内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科
- 4 病床数 296床

一	般	精	神	感	染	症	結	核	療	養	合	計
	290床		床		6床			床		床		296床

5 施設の構造設備

施設名	設備概要
集中治療室	(主な設備) 救急蘇生装置、除細動器、心電計、呼吸循環監視装置 病床数 4床
化学検査室	(主な設備) 全自動生化学分析装置、全自動免疫測定装置、全自動輸血検査装置、全自動多項目血球計数装置、全自動尿分析装置、全自動pH/血液ガス分析装置、顕微鏡
細菌検査室	(主な設備) 全自動細菌検査システム、全自動血液培養検査装置、バイオハザードキャビネット、蛍光顕微鏡、インキュベーター
病理検査室	(主な設備) 自動固定包埋装置、自動染色装置、凍結切片作成装置、医用撮影写真装置、パラフィンブロック作成装置、生物顕微鏡



施設名	設備概要
病理解剖室	(主な設備) 感染防止対策解剖台、臓器撮影装置、解剖用器具セット
研究室	(主な設備) P C、モニター、スクリーン
講義室	室数 1 室 収容定員 60 人
図書室	室数 1 室 蔵書数 20,000 冊程度
救急用又は患者搬送用自動車	(主な設備) 酸素吸入器、ストレッチャー、モニター、吸引器 患者搬送用自動車保有台数 1 台
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 10.9 m ² [共用室の場合] 室と共用

備考 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器等を記入してください。



3 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	10床
専用病床	床

備考 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記載してください。

4 重症救急患者に必要な検査、治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間使用の可否
緊急処置室 緊急処置室2	344.82㎡ ※新型コロナウイルス患者受入れに伴う臨時的な対応による面積も含む	(主な設備) 救急蘇生装置、除細動器	可
検査室1 輸血検査室	94.52㎡	(主な設備) 全自動生化学分析装置、全自動免疫測定装置、全自動輸血検査装置、全自動多項目血球計数装置、全自動尿分析装置、全自動pH/血液ガス分析装置、顕微鏡	可
	㎡	(主な設備)	
	㎡	(主な設備)	
	㎡	(主な設備)	

5 重症救急患者の受入体制の確保

救急病院等を定める省令（昭和39年厚生省令第8号）第1条の規定により認定された救急病院（現在の認定期間令和5年2月1日～令和8年1月31日（令和5年2月24日付医業第101号））

備考 特定の診療科において、重症救急患者の受入体制を確保する場合には、その旨を記載してください。

既に、救急病院等を定める省令（昭和39年厚生省令第8号）に基づき知事の救急病院の認定を受けている病院、救急医療対策の設備事業について（昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知）に基づき救急医療を実施している病院にあつては、その旨を記載してください。

6 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送用自動車により搬入した救急患者の数	2,677人 (1,003人)
上記以外の救急患者の数	2,869人 (834人)
合計	5,546人 (1,837人)

備考 それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記入し、括弧内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載してください。

7 救急用又は患者輸送用自動車

救急用又は患者輸送用自動車	1台
---------------	----

8 医療従事者の診療、研究又は研修のための共同利用の実績

<p>(1) 高度医療機器の共同利用を行った医療機関の延べ数 (2022年4月～2023年3月) 上部消化管内視鏡65件、腹部超音波検査30件、甲状腺超音波検査6件、頸動脈超音波検査3件、心臓超音波検査6件、下肢静脈超音波検査6件、MRI149件、CT227件、骨密度測定器13件、RI1件 ※同一の二次医療圏以外の医療機関分を含む</p> <p>(2) (1)の医療機関のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数 (2022年4月～2023年3月) 上部消化管内視鏡65件、腹部超音波検査30件、甲状腺超音波検査6件、頸動脈超音波検査3件、心臓超音波検査6件、下肢静脈超音波検査6件、MRI149件、CT227件、骨密度測定器13件、RI1件 ※同一の二次医療圏以外の医療機関分を含む</p> <p>(3) 共同利用に係る病床利用 2022年4月～2023年3月実績無し</p>

備考 前年度において共同利用を行った実績がある場合において、当該前年度の共同利用を行った医療機関の延べ数、これらの医療機関のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数、共同利用に係る病床の病床利用率を明記してください。

9 医療従事者の診療、研究又は研修のための共同利用の範囲等

<ul style="list-style-type: none"> ・共同利用のための専門病床 ・医療機器の利用[磁気共鳴画像装置(MRI)、コンピューター断層撮影装置(CT)、核医学検査装置(RI)、骨密度測定器、超音波検査に係る装置、内視鏡検査に係る装置 ・講義室、研修室、図書室等の利用
--

常時共同利用可能な病床数	2床
--------------	----

備考 当該病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象とする予定のものを明記してください。

10 医療従事者の診療、研究又は研修のための共同利用の体制

(1) 共同利用に関する規定の有無 有・無

(2) 利用医師等登録制度の担当者 氏名:

職種:看護師

備考 共同利用に関する規定を有する場合には、当該規定の写しを添付してください。別紙2参照

11 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住 所	主たる診療科名	地域医療支援病院開設者との経営上の関係
別紙3「登録医療機関名簿」のとおりに記入してください。				

備考 当該病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関のみ記入してください。

12 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の内容

別紙4参照「研修開催実績」

13 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	15回
(2) (1)の合計研修者数	336人

備考 1 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入してください。
2 (2)には、前年度の研修者の実数を記入してください。

14 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の体制

- (1) 研修プログラムの有無 有・無
 (2) 研修委員会設置の有無 有・無
 (3) 研修指導者

研修指導者氏名	職 種	診療科	役職等	臨床経験	特記事項
	医師	消化器内科	地域医療連携室長	19年	教育責任者
	医師	消化器内科	副院長医療局長	39年	
	看護師		副院長看護局長	34年	
	医師	整形外科	リハビリテーション長	17年	
	診療放射線技師		放射線技術科長	32年	
	臨床検査技師		検査技術科長	33年	
	薬剤師		薬剤科長	32年	

備考 教育責任者については、特記事項欄にその旨を記載してください。

15 地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積	設備概要
講義室	170.25㎡	(主な設備) 机、イス、マイク、スピーカー、スクリーン
研修室 1	93.00㎡	(主な設備) 机、イス、パーソナルコンピュータ、テレビモニター
研修室 2	29.16㎡	(主な設備) 机、イス
研修室 3	42.75㎡	(主な設備) 机、イス、スクリーン

16 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 牧田 浩行
管理担当者氏名	医事・診療情報管理課長

諸記録		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		医事・診療情報管理課、放射線技術科又は担当部署	患者IDごとに分類し電子カルテ、紙カルテで管理
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	地域医療連携室 放射線技術科	Excelで管理
	救急医療の提供の実績	医事・診療情報管理課	Excelで管理
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	地域医療連携室	Excelで管理
	閲覧実績	医事・診療情報管理課	紙カルテはカルテ管理システムで管理、電子カルテはログ管理
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	地域医療連携室	Excelで管理

備考 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入してください。

17 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 牧田 浩行
閲覧担当者氏名	・救急医療提供の実績 医事・診療情報管理課長 ・診療に関する諸記録、地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績、閲覧実績、紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績及び共同利用の実績 地域医療連携室長
閲覧の求めに応じる場所	地域医療連携室、医事・診療情報管理課

閲覧の手続の概要

1. 閲覧希望者は地域医療連携室へ直接来室し身分証明書を提示の上、「閲覧申請書」により申請
2. 地域医療連携室にて閲覧の可否を判断し申請者へ回答
3. 閲覧に際しては、救急医療の実績については医事・診療情報管理課、その他の閲覧項目については地域医療連携室にて実施

前年度の総閲覧件数		0件
閲覧者別	医師	0件
	歯科医師	0件
	地方公共団体	0件
	その他	0件

18 医療法施行規則第9条の19第1項の委員会の開催の実績

委員会の開催回数	4回
委員会における議論の概要	
<p>○第1回(2022年6月30日(木)開催)</p> <p>1 報告</p> <p>(1) 2021年度地域医療支援事業報告</p> <p>(2) 地域医療従事者等に対する研修開催実績</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 選定療養費のお知らせ</p> <p>(2) 患者サポート相談窓口のお知らせ</p> <p>(3) 足柄上臨床研究会のお知らせ</p> <p>○第2回(2022年10月14日(金)開催)</p> <p>1 報告</p> <p>(1) 2022年度地域医療支援事業報告(2022年8月31日現在)</p> <p>(2) 地域医療従事者等に対する研修開催実績及び今後の予定</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 経尿道的前立腺吊上術開始のお知らせ</p> <p>○第3回(2022年12月9日(金)開催)</p> <p>1 報告</p> <p>(1) 2022年度地域医療支援事業報告(2022年10月31日現在)</p> <p>(2) 地域医療従事者等に対する研修開催実績及び今後の予定</p> <p>2 その他</p> <p>(1) 人工関節センターのご案内</p> <p>○第4回(2023年2月28日(火)開催)</p> <p>1 議題</p> <p>(1) 2022年度地域医療支援事業報告(2022年12月31日現在)</p> <p>(2) 地域医療従事者等に対する研修開催実績及び今後の予定</p> <p>(3) 経尿道的前立腺吊上術開始のお知らせ</p> <p>(4) 人工関節センターのご案内</p> <p>(5) 特定行為研修のご案内</p> <p>(6) 当院に対する意見・要望</p> <p>2 その他</p>	

備考 委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載してください。

19 患者相談の実績

患者相談を行う場所	相談窓口 <u>相談室</u> ・その他 ()
主として患者相談を行った者 (複数の記入も可)	看護師・ソーシャルワーカー・相談員
患者相談件数	2,895件
患者相談の概要	
<p>○医療相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅支援 <ul style="list-style-type: none"> 介護保険関係 訪問看護関係 往診医関係 ・転院支援 ・受診相談 <p>○福祉相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心理社会的問題の解決調整 ・経済的問題の解決調整 ・退院援助 ・受診・受療援助 	

備考 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載してください。また、個人が特定されないように記載してください。

2 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況

番号	職 種	氏 名	勤務の態様	勤務時間	備 考
1	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
2	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
3	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
4	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
5	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
6	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
5	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
6	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
7	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
10	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
11	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
12	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
13	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
14	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
15	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
16	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
17	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
18	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
19	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
20	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
21	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
22	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
23	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
24	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
25	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
26	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	
27	医師		常勤 専従 非常勤 非専従	38時間45分	

28	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
29	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
30	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
31	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
32	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
33	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
34	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
35	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
36	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
37	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
38	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
39	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
40	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
41	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
42	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
43	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
44	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
45	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
46	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
47	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
48	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
49	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
50	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
51	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
52	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
53	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	

54	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
55	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
56	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	
57	准看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38時間45分	

O

O

神奈川県立足柄上病院 共同利用制度運営規程

<目的>

第1条 この制度は、地域医療支援病院である神奈川県立足柄上病院（以下「病院」という。）の施設又は医療設備の一部を病院の存する地域の医療機関の医療従事者に対して、診療、研究又は研修を目的とした利用のために開放し、地域の医療機関との連携及び地域の医療従事者の相互研鑽を図ることを目的とする。

<共同利用を行う者>

第2条 共同利用を行う対象者は、病院の存する地域の医療機関に勤務する医師、歯科医師、看護師、薬剤師等の医療従事者とする。

<共同利用の施設等>

第3条 共同利用の内容は次の通りとする。

(1) 共同利用病床の利用

(2) 医療機器等の利用

- ・コンピュータ断層撮影装置 (CT)
- ・磁器共鳴画像装置 (MRI)
- ・核医学検査装置 (RI)
- ・骨密度測定装置
- ・内視鏡検査に係る装置
- ・超音波検査に係る装置

(3) 講義室、研修室、図書室の利用

(4) その他、病院長が必要と認める施設等の利用

2 病院長は共同利用することができる施設等を定めたとき又は変更したときは、登録医療機関に周知しなければならない

3 共同利用の細則は別に定める。

<利用者の権限と責務>

第4条 施設等の共同利用を行う者が、患者に必要な投薬、検査、処置等の診療行為を指示するときは病院の主治医を介して行う。

2 患者又は家族に対する説明は、病院の主治医と協議して行う。

3 施設等の共同利用を行う者は、来院時に地域医療連携室で受け付けを行い、登録医証を装着する。

4 施設等の共同利用を行う者は、病院の慣行、取り決め等を遵守する。

<医療事故等への対応>

第5条 共同利用の実施に関して生じた医療事故等については、事案に応じて病院と

当該登録医（以下、「両者」という。）が連携を密にし、協力して対応にあたることとする。

- 2 医事紛争が発生した場合は、両者が連携を密にし、協力して対応する。
- 3 損害賠償や医療裁判に発展した場合は、両者各々の責任に応じて、加入している損害賠償保険を適用する。

<報酬等>

第6条 共同利用を行う者に対しては、その目的に鑑み報酬等は支給しない。

<規程の改正>

第7条 本規程は、地域医療支援事業運営委員会で協議のうえ改正することができる。

附則

この規程は、令和3年2月1日から施行する。

登録医療機関の名簿
病院

別紙 3

番号	医療機関名称	開設者氏名	住所	診療科名	地域医療支援病院開設者との経歴上の関係
1	医療法人社団明芳会 北小田原病院	医療法人社団明芳会 理事長 中村 哲也	南足柄市矢倉沢625	内 精 皮 脳内 老精	なし
2	大内病院	医療法人社団 朱鷺会 理事長 大内 英樹	南足柄市中沼594-1	内 小 外 皮 アレ 整外 循内 糖内 循外 消外 消内 肛外	なし
3	医療法人陽風会 高台病院	医療法人陽風会高台病院 理事長 北原 信夫	足柄上郡開成町金井島1983	内 リハ 歯	なし
4	佐藤病院	医療法人 藤誠会 理事長 杉江 広紀	足柄上郡大井町金子1922-3	内 整外 外 ひ 小 皮	なし
5	日野原記念ピースハウス病院	一般財団法人ライフ・プランニング・センター 理事長 久代 登志男	足柄上郡中井町井ノ口1000-1	内	なし
6	医療法人社団 帰陽会 丹羽病院	医療法人社団 帰陽会 理事長 南 康平	小田原市荻窪406	内 消 外 こう	なし
7	医療法人社団綾和会 間中病院	医療法人社団綾和会 理事長 横田 通夫	小田原市本町4-1-26	内 呼内 外 整外 脳外 皮 リハ 消内 循内	なし
8	医療法人財団報徳会 西湘病院	医療法人財団報徳会 西湘病院 理事長 原 俊介	小田原市扇町1-16-35	内 外 整外 脳外 形外 美外 リハ 婦 神内 循内 消内 消外	なし
9	医療法人 小林病院	医療法人小林病院 理事長 小林 泉	小田原市栄町1-14-18	内 神内 外 小外 整外 脳外 ひ 婦 放 リハ 循 麻 歯 リウ 皮 消外 ペイン外 漢内 糖内	なし
10	公益財団法人積善会 曾我病院	公益財団法人積善会 理事長 長谷川 隆三	小田原市曾我岸148	精 内 歯	なし
11	特定医療法人社団研精会 箱根リハビリテーション病院	特定医療法人社団 研精会 理事長 山田 多佳子	足柄下郡箱根町仙石原1285	内 神内 リハ	なし
12	一般財団法人生活保健協会 湯河原中央温泉病院	一般財団法人生活保健協会 理事長 青木 英和	足柄下郡湯河原町中央4-11-2	内	なし
13	湯河原胃腸病院	医療法人社団中山会 理事長 遠藤 健	足柄下郡湯河原町土肥4-3-1	内 胃 外 皮 こう 心外 循内	なし

診療所等

番号	医療機関名	開設者名	住所	診療科目	地域医療支援病院開設者との経歴上の関係
1	山田内科医院	山田 純一	足柄上郡松田町松田庶子1543-1	内 小	なし
2	松田町国民健康保険診療所	松田町長	足柄上郡松田町寄2538	内 小 外	なし
3	医療法人社団 佐藤内科医院	医療法人社団 佐藤内科医院 理事長 佐藤 弘樹	足柄上郡松田町松田惣領1333	内 糖内	なし
4	まごころ内科整形外科クリニック	能見 慎太郎	足柄上郡松田町松田惣領992-1-3F	内 整外 皮	なし
5	医療法人社団 田村小児科医院	医療法人社団田村小児科医院 理事長 田村 秀一	足柄上郡松田町松田庶子1532	小	なし
6	にしこうり形成外科・皮ふ科	錦織 岳史	足柄上郡松田町松田惣領1196-1クレドゥレスポータル 1A	形外 皮	なし

番号	医療機関名	開設者名	住所	診療科目	地域医療支援病院開設者との経営上の関係
7	松元医院	松元 淳一	足柄上郡開成町吉田島408	内 小	なし
8	おひさまクリニック 開成	医療法人 おひさま会 理事長 柳田 毅	足柄上郡開成町みなみ1-23-3	内 外	なし
9	樹医院	医療法人社団 陽康会 理事長 杉森 忠貫	足柄上郡開成町吉田島4320-2	外 内 脳外 整外 麻	なし
10	岡部医院	岡部 元彦	足柄上郡開成町吉田島2819	小 内 循	なし
11	おくやま小児科	医療法人おくやま小児科 理事長 奥山 健一	足柄上郡開成町吉田島1289-1	小 アレ	なし
12	あじさい内視鏡クリニック	医療法人 あじさい会 理事長 小坂田 純一郎	足柄上郡開成町みなみ5-4-17 サウスポート開成みなみ1F	内 精 心内 消内 糖内	なし
13	医療法人社団 大熊整形外科	医療法人社団 大熊整形外科 理事長 大熊 正彦	足柄上郡開成町延沢778-1	整外	なし
14	医療法人鷗友会 白鷗医院	医療法人鷗友会 理事長 玉山 容碩	足柄上郡開成町牛島270	内 リウ ひ 外 循内 消内	なし
15	医療法人社団 遠藤耳鼻咽喉科医院	医療法人社団 遠藤耳鼻咽喉科医院 理事長 遠藤 圭介	足柄上郡開成町吉田島4364-4	耳い	なし
16	小泉クリニック	医療法人患中会 理事長 小島 時昭	足柄上郡開成町吉田島4352-3ザ・開成プレイス1F	内 呼内 循内	なし
17	山北町立山北診療所	山北町長	足柄上郡山北町谷ケ1018-20	内 小 外 整外	なし
18	医療法人 能清会 飛弾クリニック	医療法人 能清会 飛弾クリニック 理事長 飛弾 康則	足柄上郡山北町向原150	内 小 外 皮	なし
19	ねもと総合内科クリニック	根本 佳和	足柄上郡山北町山北711-32	内 小	なし
20	山北中央診療所	医療法人社団 恵風会 理事長 片野 智之	足柄上郡山北町山北192	内 小 外 皮 リハ 整外 精 消内	なし
21	武田耳鼻咽喉科クリニック	武田 啓介	足柄上郡大井町金子字井向1375	耳い	なし
22	まえかわクリニック	医療法人仁和会 理事長 前川 出	足柄上郡大井町金子2601-1	内 小 アレ リウ リハ	なし
23	医療法人社団 松和会 友和クリニック	医療法人社団松和会 理事長 富 野 康日己	足柄上郡大井町金手127	人透内	なし
24	瀬戸クリニック	瀬戸 哲郎	足柄上郡大井町山田1133	内 小 心内	なし
25	堀内医院	堀内 満水雄	足柄上郡大井町金子849-1	ひ 皮 内	なし
26	渥美医院	医療法人社団回生会 渥美医院 理事長 渥美 久	足柄上郡大井町金子48	内 小	なし
27	大井町クリニック	医療法人 イオラナ 理事長 原 久美子	足柄上郡大井町上大井409-5	内	なし

番号	医療機関名	開設者名	住所	診療科目	地域医療支援病院開設者との経営上の関係
28	みつばクリニック	金原 一弘	足柄上郡中井町北田525	内 皮 心内 放	なし
29	りゅう医院	劉 嵩	足柄上郡中井町比奈窪35	内 小 整外 リハ	なし
30	なかいファミリークリニック	医療法人あじさい会 理事長 小坂田 純一郎	足柄上郡中井町井ノ口1876-1 ザ・中井プライム1階	内 小 総診	なし
31	富士フィルムグループ健康保険組合 富士フィルム健康管理センター	富士フィルムグループ健康保険組合 理事長 座間 康	南足柄市狩野681	内 齒外 齒 精 消内 循内	なし
32	医療法人社団慈邦会 石川医院	医療法人社団慈邦会 理事長 石川 清一	南足柄市塚原710-2	内 小 外 消内	なし
33	医療法人社団徳誠会 柴田産科婦人科クリニック	医療法人社団徳誠会 理事長 柴田 光夫	南足柄市塩下440-2	産 小	なし
34	光生診療所	医療法人社団光生診療所 理事長 伊藤 かおる	南足柄市塚原1407	内 小	なし
35	医療法人社団 鈴木医院	医療法人社団 鈴木医院 理事長 鈴木 哲	南足柄市関本930	内 小	なし
36	くまざわ皮膚科クリニック	熊澤 智子	南足柄市関本830-1	皮	なし
37	南足柄クリニック	医療法人社団 慈和会 理事長 阿部 和弘	南足柄市関本565-5 第一棟 ヴェルミ3F. 301区画	ひ 内	なし
38	医療法人社団 武尾医院	医療法人社団 武尾医院 理事長 武尾 宏	南足柄市塚原2641	内 小	なし
39	緑蔭診療所	樋口 亮	南足柄市塚原4350-1	内 婦 皮	なし
40	医療法人社団 いずみ耳鼻咽喉科医院	医療法人社団いずみ耳鼻咽喉科医院 理事長 関口 美也子	南足柄市関本565-5	耳い	なし
41	医療法人社団 奥津医院	医療法人社団奥津医院 理事長 奥津 紀一	南足柄市生駒381	内 消 小	なし
42	吉沢医院	吉澤 巖	南足柄市千津島2437	内 外 皮	なし
43	医療法人 おぎの整形外科・歯科	医療法人 おぎの整形外科・歯科 理事長 荻野 哲夫	南足柄市関本750-1	整外 リウ リハ 齒	なし
44	いのうえクリニック	医療法人 三協会 理事長 井上 育夫	南足柄市沼田97-1ララミーマンション2階	胃 外 内 こう	なし
45	こうの内科クリニック	河野 典博	南足柄市岩原180-1	内 呼	なし
46	おだわら泌尿器科・内科クリニック	医療法人社団慈和会 理事長 阿部 和弘	小田原市栄町1-18-29	ひ 内	なし
47	久保クリニック	医療法人社団東鳩会 理事長 久保 藤実	小田原市中里281-3	内 外 皮 リハ	なし
48	かただ整形外科	医療法人 かただ整形外科 理事長 片田 重彦	小田原市下大井字京田574-1	整外 リハ	なし

番号	医療機関名	開設者名	住所	診療科目	地域医療支援病院開設者との経営上の関係
49	渡辺整形外科	医療法人社団 弘達会 理事長 渡辺 義弘	小田原市浜町1-6-4	整形外科 リウマチ リハビリ	なし
50	桜みちクリニック (R4.5.31付、閉院)	永武 毅	神奈川県小田原市矢作5-1	呼・内・アレ	なし
51	鴨宮クリニック	林 秀雄	小田原市南鴨宮3-20-18	内 消内	なし
52	循環器中町クリニック	医療法人 イオラナ 理事長 原 久美子	小田原市中町3-1-26	内 循内	なし
53	善ファミリークリニック	医療法人善ファミリークリニック 理事長 加藤 善史	小田原市中曾根72-1 パシオス小田原店1F	小 内 外	なし
54	川邊小児科内科医院	医療法人 慈愛会 理事長 川邊 修二	小田原市酒匂5-13-38	小 内	なし
55	あおぞらクリニック	医療法人社団 明晴会 理事長 中島 厚	小田原市酒匂2-28-51-1	内	なし
56	高木整形外科医院	高木 淳	小田原市蓮正寺310-1	整形外科 リハビリ	なし
57	医療法人社団 村田医院	医療法人社団 村田医院 理事長 村田 一也	小田原市栢山473	麻 内 小 皮 リハビリ	なし
58	医療法人社団 富田医院	医療法人社団 富田医院 理事長 富田 さつき	小田原市曾我別所777-6	内	なし
59	菱木医院	菱木 俊匡	小田原市栢山2823-4	内 小 腎内	なし
60	医療法人社団 浜町小児科医院	医療法人社団 浜町小児科医院 理事長 遠藤 徳之	小田原市浜町1-14-3	小	なし
61	医療法人社団愛和会 かみやまアレルギー科小児科クリニック	医療法人社団愛和会 理事長 神 山 務	小田原市浜町3-11-5	アレ 小	なし
62	医療法人社団 横田小児科医院	医療法人社団 横田小児科医院 理事長 横田 俊一郎	小田原市北ノ窪515-3	小	なし
63	安間医院	医療法人 けやき会 理事長 安 間 美津彦	小田原市栄町2-7-18	内 小	なし
64	やまざき小児科医院	山崎 伸	小田原市高田309-1	小	なし
65	ファミリークリニック悠久	医療法人社団敬仁会 理事長 武 市 早苗	小田原市成田462-1	内	なし
66	遠藤クリニック	医療法人社団 遠藤クリニック 理事長 遠藤 章	小田原市西大友503	小 内 皮	なし
67	漢和クリニック	安藤 進	小田原市扇町3-26-28	内	なし
68	加藤小児科医院	医療法人社団 加藤小児科医院	小田原市堀之内218-3	小 アレ	なし
69	あすなろクリニック	高橋 由利子	小田原市南鴨宮3-18-13	小 アレ	なし

番号	医療機関名	開設者名	住所	診療科目	地域医療支援病院開設者との経営上の関係
70	医療法人社団 安寧会 川上医院	医療法人社団 安寧会 理事長 川上 寧	小田原市飯田岡371-1	内 び 皮	なし
71	渡辺医院	渡邊 明人	小田原市中曾根78	脳外 内 外	なし
72	医療生協かながわ生活協同組合 おだわら診療所	医療生協かながわ生活協同組合 理事長 池田 俊夫	小田原市堀之内253-1	内 アレ 整外 呼内	なし
73	小田原中央クリニック	医療法人社団 扇会 理事長 山下 功	小田原市堀之内7-1 中嶋ビル101	内 精	なし
74	マナクリニック	医療法人 命宝会 理事長 須田 民男	小田原市永塚5	内 神内 呼内 耳い	なし
75	小杉産婦人科内科小児科クリニック	医療法人 小杉クリニック 理事長 小杉 一弘	小田原市北ノ窪439-1	産婦 内 小	なし
76	吉邑クリニック	医療法人社団 吉邑クリニック 理事長 吉邑 由佳	小田原市飯田岡288	び 内 皮 外 消外 乳外	なし
77	医療法人邦友会 小田原新幹線クリニック	医療法人邦友会 理事長 杉 薫	小田原市栄町1-14-4 8 ジャンボーナックビル 3階	内 人透内	なし
78	すずき小児科	鈴木 善太	足柄上郡大井町金子1643-1	小 アレ	なし



開催日	場所	研修名	研修内容	参加人数		備考	
				院内	院外 合計		
1 5月13日	足柄上病院	医療・介護地域連絡会	<p>テーマ:「withコロナ-これまでとこれから-」</p> <p>講師:足柄上病院総合診療科医長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対応開始時期からの経過を、画像や動画を活用し振り返り。看取りの場面に立ち合うことも叶わない現実も紹介され、通常と違う医療・介護の実際を実感する内容であった。少しずつコロナ対策については明らかになってきているが、医療・介護現場においては個々の意識を常に持ち行動するが重要であると再認識できた。 <p>①「胃癌肝浸潤に対して、幽門側胃切除、肝外側区域切除術を施行した1例」</p> <p>演者:足柄上病院外科医師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃外発育性胃癌が肝臓に浸潤するきわめて稀な症例を経験した。化学療法でPDになり、局所コントロール目的に手術を施行し、根治切除が可能であった症例について報告された。 <p>②「加味逍遙散の中止により慢性下痢が軽快した静脈硬化腸炎の1例」</p> <p>演者:足柄上病院総合診療科医師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年以上以上におわたる下痢に悩まされADLに支障をきたしていた。患者自身が仕方ないものと経過観察していた中、便潜血陽性を機に診断された症例。考察の一つとして、加味逍遙散は不定愁訴を訴える際に処方されることも多く、本疾患との関連性に十分に留意する必要があると述べられた。 <p>③「画像診断トリアージ集」</p> <p>演者:足柄上病院放射線科医師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃管留置の際に下顎歯を誤飲し、確認撮影が必要となった画像や、認知症患者の異食による実際の画像、散弾銃残留の画像など、多くの画像が紹介された。日項目にする機会がなく興味深い内容であった。 <p>④「当院の糖尿病治療の質を評価する」</p> <p>演者:大井町クリニック医師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通院中の糖尿病患者79名への医療行為に対し、診療所としての医療の質を評価した。その中で、「体重の増減が肥満およびやせの患者には栄養相談の機会を持つ」「多剤の場合は、薬剤の特性と個々の患者の状況で評価する」「日常生活習慣を患者とともに振り返ってみる」などの方針を考えた。また、医療の評価について、最終的には結果によるが、糖尿病は血糖値とHbA1cで比較ができない。医療の質の評価は、個々の患者から始まり患者の総体で終わるなどの見解が述べられた。 	5	46	51	WEB
2 6月7日	足柄上病院	足柄上臨床研究会	<p>テーマ:「乳幼児健診のチェックポイントと最近の話題(1歳6か月児、3歳児編)」</p> <p>講師:足柄上病院小児科医師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足柄上地域では、小児科を専門としない医師が健診の6割を占め、専門領域外であることへの不安を感じながら健診業務に協力している現状がある。今回の講義では、健診においてその時期の成長・発達を評価するポイントと、保健指導ならびに精密健診につながる目安について、主たるスクリーニング項目を中心に解説された。 	26	12	38	ハイブリット
3 7月8日	足柄上病院	医療・介護地域連絡会	<p>テーマ:「コロナ禍の家族看護 Part II」</p> <p>～事例から見える家族支援(外出自粛や面会禁止などの現状から)～</p> <p>講師:足柄上病院家族支援専門看護師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においては、病院や施設等では面会制限により家族が見えにくくなり、在宅領域では隔離状態が逆に家族の力を弱める場合もある。医療・看護・介護を安心して受けられるための支援では「家族の力を最大限に引き出すこと」「家族全体の健康を目指すこと」「未来の危機に備える力をつけること」が大切であると述べられ、事例をもとにアセスメントのポイントも紹介された。 	5	15	20	ハイブリット
4 7月13日	足柄上病院	足柄上医師会学術講演会	<p>テーマ:「乳幼児健診のチェックポイントと最近の話題(1歳6か月児、3歳児編)」</p> <p>講師:足柄上病院小児科医師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足柄上地域では、小児科を専門としない医師が健診の6割を占め、専門領域外であることへの不安を感じながら健診業務に協力している現状がある。今回の講義では、健診においてその時期の成長・発達を評価するポイントと、保健指導ならびに精密健診につながる目安について、主たるスクリーニング項目を中心に解説された。 	3	22	25	WEB

開催日	場所	研修名	研修内容	参加人数		備考	
				院内	院外 合計		
5月 7月 19日	小田原総合医療会館	足柄上・小田原医師会 消化器疾患講演会	①「消化器診療のトピックス」～ 演者：足柄上病院消化器内科部長 ・最近10年間に於ける消化器診療の進歩について、症例やデータなどトピックスとして状況説明された。 ②「GERD診療ガイドラインについて」 演者：自治医科大学消化器内科学 富士ファイルムメディカル国際光学医療講座 教授 ・GERD治療の第1選択薬として強力な酸分泌抑制薬の投与が勧められる。軽症逆流性食道炎はPPIまたはP-CABの投与が推奨、重症逆流性食道炎にはP-CABが提案される。など、2021年に改訂された内容の注意点をわかりやすく解説された。 ～果たしてどこに原因が？ 四肢編～ 講師：横浜国立大学総合診療医学 教授 先生 ・右上腕の痛みがあり、整形外科や脳神経内科を受診したが診断がつかなかった症例がいわゆる五十肩であった。左腕の腫れ、手指冷感とこわばり、手の甲は白いが手の平は赤いなどの症状で、頸椎症の疑いや皮膚科でのフォオローもされているが改善しない症例の診断が胸郭出口症候群であった。など6症例について、内科であっても習熟すべき整形外科の診察手技を、解剖学に落とし込みながら分かりやすく解説された。ほとんどの症例が問診の時点で診断できていたことに驚きの感想がきかれた。	2	21	23	ハイブリット
6月 7月 28日	足柄上病院	西湘総合診療研究会	①「帯状疱疹後神経痛との鑑別」に苦慮した急性心筋梗塞の一例」 演者：足柄上病院循環器内科医師 ・胸および肩の痛みが急性冠症候群による症状かか鑑別が困難な一例の経過について紹介。経過から、本症例においては狭心症症状であったが、症状、身体所見、心電図検査のみでの判断は困難なこともあり、HEARTやTIMIリスクスコアの有用性を再認識したと述べられた。 ②「不整脈の診断と治療 ～最新のトピックスと外来管理を中心に～」 演者：足柄上病院循環器内科医師 ・2022年度改訂された不整脈の診断とリスク評価に関するガイドラインおよび2020年度版不整脈薬治療法ガイドラインから、最新のトピックスと外来診療における管理について解説された。その中高齢者に対するアブレーションは、発作性心房細動症例においては治療適応は若年者と同様に考えることは妥当である。一方、持続性・長期持続性心房細動への治療に関してのエビデンスは乏しく、若年者よりも低いと考えられると述べられた。	19	39	58	ハイブリット
7月 9月 6日	足柄上病院	足柄上内科医会	「足柄上地区看護師・保健師・ケアマネージャーの集い」 ～それぞれの現場の本音を語り合おう～ ・コロナ禍における看取り・入退院支援・感染予防など、日頃の業務で感じていることを本音で語り合う場としてグループワークを行った。医療・介護それぞれの場で、この感染症による影響は大きく、特に面会制限や介入制限が強いられる中で、看取りを含め終末期をどのように支援できるか、模索しながら日々業務を行っている現状を知る事ができた。それぞれの機関でのタイムリーな連携は不可欠であり、引き続き情報共有を図る必要性を再認識した。	14	14	28	ハイブリット
8月 9月 9日	足柄上病院	医療・介護地域連絡会		8	6	14	WEB

開催日	場所	研修名	研修内容	参加人数		備考	
				院内	院外 合計		
9月21日	足柄上病院	胃癌トータルケアWebセミナー 十一	<p>①胃癌薬物療法の新〜初診時から治療まで〜 講師：神奈川県立がんセンター 消化器内科(消化管) 部長 先生 ・胃癌治療における薬物療法について、初診時の関わりから実際の治療までを解説。薬物治療についての説明では、抗がん剤使用による延命効果、手術との併用で生存割合を高めるエビデンスなどメリット・デメリットを示し理解を得ることが大切である。高齢患者が増えている現在では、自身で判断することが難しいケースもあるが、基本は患者自身の意思決定を尊重することの内容であった。また、治療開始する前に必ず高額療養費制度の使用についても説明が必要であると述べられた。</p> <p>②がん治療医が実践する緩和ケアとがん疼痛治療 講師：富山大学附属病院 臨床腫瘍部 副部長 診療講師 先生 ・施設で作成した緩和ケアマニュアルをご紹介します。ACP(アドバンスケアプランニング)や新薬について薬剤の特徴、エビデンスについて、チーム医療を進める上で他職種にも理解してもらえるポイントなどを解説頂いた。患者・家族・医療者間で病状認識が一致していない事がある。チームとして患者対応が大切であり患者もチームでの対応を望んでいると話され、多職種連携の必要性を再確認できる内容であった。</p>	22	18	40	ハイブリット
10月11日	足柄上病院	医療・介護地域連絡会	<p>テーマ：看取りパートI 〜コロナ禍における看取りについて考える 病院の事例から〜 講師：足柄上病院 緩和ケア認定看護師 ・コロナ禍になり3年目となり、受け入れ開始当初から現在までの経過の中で、看取りに関する対応の変化を、事例をもとに紹介。コロナ感染症で入院の患者のみならず、一般病棟に入院の患者も面会制限により家族と過ごす時間が設けられないという課題が続いている。また、コロナ感染により病態が急変した場合の延命処置を含めた意思決定では、患者・家族ともに迷う事例もあり、ACPIについての普及活動も課題との内容であった。</p>	16	26	42	WEB
11月15日	足柄上病院	足柄上臨床研究会	<p>①「前立腺肥大症に対する手術療法〜ウロリフトについて〜」 演者：足柄上病院 泌尿器科 医師 ・当院で10月より開始されたウロリフトシステムを用いた前立腺吊り上げ術について、実際の症例を動画を交え紹介がされた。低侵襲であり、高齢者にも比較的施行することができた。今後、従来手術と並行して症例数を重ね、有用性および安全性について引き続き検討していく予定である。</p> <p>②「仮SC固定術により治療した若年性キーベック病の1例」 演者：足柄上病院 整形外科 医師 ・キーンベック病の若年例は比較的まれであり、12歳未満では保存療法が、12歳以上で骨成熟に至らない年齢では手術療法が主と言われ、手術療法では焼骨骨切り術が主となる。14歳で野球部の男子である本症例では、骨切り術での過成長のリスクを考慮し、一時的な手根骨間固定術とした。仮固定の術式は、STT固定と比べ簡便であり低侵襲であるSC固定を選択し、6か月の固定期間を経て術後18か月で疼痛なく握力・可動域は改善し良好な成績となったとの内容が報告された。</p> <p>③「鼠径ヘルニアメッシュ感染に対する手術4年後にS状結腸へのメッシュ迷入が疑われた一例」 演者：足柄上病院 外科 医師 ・黒色便精査目的に入院し、大腸ステント挿入目的で下部消化管内視鏡検査を施行した際に狭窄部位の黒色物質の残留の一部が人工物に見え、鉗子で除去を試みたが摘出できなかった。CTでS状結腸内に高濃度腫瘍を認め、内視鏡で認めた異物に相当すると考えられた。文献検索中に発見した「鼠径ヘルニアメッシュのS状結腸迷入症例(1・2・3)」とCT所見が類似しており、本症例も鼠径ヘルニア術後感染の既往があったため、同病態であると考えた。1年前のCTを見返すと左鼠径部の炎症とS状結腸が近接しており、ここからS状結腸内へメッシュが迷入したと示唆された。メッシュ迷入の診断には患者のこれまでの手術歴を確認すると同時にCT所見の継続的变化が参考となると述べられた。</p>	31	13	44	ハイブリット

開催日	場所	研修名	研修内容	参加人数		備考
				院内	院外 合計	
12 2月9日	足柄上病院	西湘総合診療研究会	<p>～果たしてどこに原因が？ 精神症状編～ 講師：横浜市立大学総合診療医学 教授 先生 ・「身体疾患か精神疾患かの二元論から脱却する」「健康問題の三要素の見積もりを心がけるようにする」「包括的に三要素を診断し、アプローチを試みる」「身体疾患を見逃さない」という診察に必要なポイントについて、事例をもとに解説された。</p> <p>演題1 「退院調整における療養先選定のプロセス」～特に栄養経路の選択を焦点として～ 演者：足柄上病院地域医療連携室 MSW コメントーター：足柄上病院消化器内科 ・退院調整における退院先の選定では、栄養経路（経口or経管or点滴など）の問題が左右されることがある。栄養経路によっては、本人・家族の意向と違えば退院先を選定する必要があり、調整が難渋する。今回は、医師側の考え方を交えながらそのプロセスを紹介された。</p> <p>演題2 看取りパートII 「コロナ禍の看取り」～一般病棟・コロナ病棟・在宅療養後方支援チームでの経験から～ 演者：足柄上病院後方支援（在宅診療部）看護師 ・コロナ禍においては、面会禁止の影響が看取りの場面にも影響を及ぼしてきた。一般病棟・コロナ対応病棟・在宅後方支援での看取りの事例が紹介され、面会制限や厳重な感染対策など様変わりした状況下での対応や課題が述べられた。</p>	13	37	ハイブリット
13 2月10日	足柄上病院	医療・介護地域連絡会	<p>①「画像トリビア集 その2」 演者：足柄上病院放射線科医師 ・6月に続き今回は血管編と題し、4つのケースの画像診断について解説がされた。受診時の主訴から病名を予測し、実際に画像を撮ってみると予測外の診断となることがある。日常では、カルテ上で読影レポートを確認しているが、実際にわかりやすく解説があり、興味深く学べる内容であった。</p> <p>②「発熱・炎症高値を主訴に発症した胃癌多発骨転移の1例」 演者：足柄上病院外科医師 ・今回、下腹部痛と発熱を主訴に紹介があり、精査の結果胃癌ステージIVB多発骨転移と診断。化学療法とオピオイドの治療を開始したが、倦怠感などの有害事象が強く、精神的な負担も大きいと申し出があり、十分な説明と相談をしながら治療中止を選択され、在宅診療に移行して緩和治療をお行い、発症から5か月で現病死された。胃癌骨転移の症例は数%といわれている。骨転移単独の症例もあり、胃癌患者の疼痛の訴えには骨転移を念頭に置くことは重要であるとの内容であった。</p> <p>③「鼠径ヘルニア嵌頓症例の臨床経過の検討」 演者：足柄上病院 外科医師 ・当院で実施した鼠径ヘルニア手術のうち、嵌頓症例2症例の手術および術後の経過について述べられた。明確な原因が腹腔内でない腸閉塞の症例は、鼠径部の観察をすることで原因が分かる可能性があり、待機的手術は合併症のリスクは少ないとされており、手術を勧めよとの見解であった。</p> <p>テーマ：看取りⅢ 在宅での看取りを考える「withコロナ ～より良い看取りケアに向けて～」 事例提供者：ケアマネまつた 介護支援専門員 氏 パネリスト：介護老人保健施設 悠久 介護支援専門員 氏 足柄上病院 MSW ・施設入所中の方が、ご家族の希望もあり自宅看取りを希望された。多職種で連携し、希望通り自宅で看取ることができたケースについて、病院、施設、在宅診療、訪問看護、ケアマネージャーなど、それぞれの立場からの見解をディスカッションした。</p>	12	24	36 WEB
14 3月8日	足柄上病院	足柄上臨床研究会	<p>①「画像トリビア集 その2」 演者：足柄上病院放射線科医師 ・6月に続き今回は血管編と題し、4つのケースの画像診断について解説がされた。受診時の主訴から病名を予測し、実際に画像を撮ってみると予測外の診断となることがある。日常では、カルテ上で読影レポートを確認しているが、実際にわかりやすく解説があり、興味深く学べる内容であった。</p> <p>②「発熱・炎症高値を主訴に発症した胃癌多発骨転移の1例」 演者：足柄上病院外科医師 ・今回、下腹部痛と発熱を主訴に紹介があり、精査の結果胃癌ステージIVB多発骨転移と診断。化学療法とオピオイドの治療を開始したが、倦怠感などの有害事象が強く、精神的な負担も大きいと申し出があり、十分な説明と相談をしながら治療中止を選択され、在宅診療に移行して緩和治療をお行い、発症から5か月で現病死された。胃癌骨転移の症例は数%といわれている。骨転移単独の症例もあり、胃癌患者の疼痛の訴えには骨転移を念頭に置くことは重要であるとの内容であった。</p> <p>③「鼠径ヘルニア嵌頓症例の臨床経過の検討」 演者：足柄上病院 外科医師 ・当院で実施した鼠径ヘルニア手術のうち、嵌頓症例2症例の手術および術後の経過について述べられた。明確な原因が腹腔内でない腸閉塞の症例は、鼠径部の観察をすることで原因が分かる可能性があり、待機的手術は合併症のリスクは少ないとされており、手術を勧めよとの見解であった。</p>	21	12	33 ハイブリット
15 3月10日	足柄上病院	医療・介護地域連絡会	<p>テーマ：看取りⅢ 在宅での看取りを考える「withコロナ ～より良い看取りケアに向けて～」 事例提供者：ケアマネまつた 介護支援専門員 氏 パネリスト：介護老人保健施設 悠久 介護支援専門員 氏 足柄上病院 MSW ・施設入所中の方が、ご家族の希望もあり自宅看取りを希望された。多職種で連携し、希望通り自宅で看取ることができたケースについて、病院、施設、在宅診療、訪問看護、ケアマネージャーなど、それぞれの立場からの見解をディスカッションした。</p>	4	31	35 WEB
			合計	201	336	537